

第8回稲沢市観光基本計画推進委員会 会議要旨

【日時】令和5年1月24日（火）午後1時30分～午後3時

【場所】稲沢市産業会館1階 大会議室

【出席者】稲沢市観光基本計画推進委員会委員（敬称略）

委員長	大澤 健	和歌山大学経済学部教授
副委員長	榊原 仁	一般社団法人愛知県観光協会専務理事
委員	栗林芳彦	名古屋文理大学情報メディア学部情報メディア学科教授
	西村哲治	公益社団法人日本観光振興協会中部支部事務局長
	古川正美	稲沢市観光協会事務局長
	阿部一洋	稲沢商工会議所事務局長
	桜木三喜夫	祖父江町商工会事務局長
	木下正章	名古屋鉄道株式会社 地域活性化推進本部地域連携部ツーリズム担当課長
	林 和伸	善光寺東海別院住職
	水上俊貴	愛知県観光コンベンション局観光振興課長
	大野芳樹	公募市民
	吉田恵子	公募市民

【事務局】	足立和繁	稲沢市経済環境部長
	内藤邦将	稲沢市経済環境部商工観光課長
	加藤敦史	稲沢市経済環境部商工観光課主幹
	梶浦英雄	稲沢市経済環境部商工観光課主査
	酒井仁志	稲沢市観光協会観光コーディネーター兼事務局次長
	櫻木 彰	稲沢市観光協会事務局次長
	川村英二	稲沢市観光協会事務局主幹
	石井好美	稲沢市観光協会事務局

【傍聴者】 1名

【会議次第】

- 1 委員長あいさつ
- 2 協議事項
 - (1) 稲沢市観光まちづくりビジョン（第2次稲沢市観光基本計画）の中間見直しについて
 - (2) パブリックコメントの実施について
- 3 その他

【会議の概要】

1 委員長あいさつ

[大澤委員長]

この委員会では、観光基本計画の10年間の計画の後期に向けて改訂作業を進めているが、その過程で前半はどうであったかに思いを巡らせた。計画の始まった当初は、「稲沢で観光？」という状態からスタートし、観光まちづくりを推進するという方針を明確にしてこの5年間取り組んできたと思う。その中で市民の皆さんには、稲沢市のいいところを探していただいて、それを核とした観光を推進するということをぶれずにやってきたと評価している。この5年間で稲沢市が目指す観光の姿をかなり明確にでき、市民の皆さんにもご理解いただけるような動きをしてきたと感じている。これからの5年間では、力の入れ所を考えながら、今までの方針をより強化して「稲沢といえば観光」というような言葉が聞こえてくる状態になるように計画を見直せたらと思う。委員の皆さんには積極的な意見をいただいて進めていければと思うので、よろしく願いたい。

2 協議事項

- (1) 稲沢市観光まちづくりビジョン（第2次稲沢市観光基本計画）の中間見直しについて
- (2) パブリックコメントの実施について

[事務局]

資料1「稲沢市観光まちづくりビジョン(第2次稲沢市観光基本計画)後期計画(案)」に基づき説明

[大澤委員長]

(基本方針2 アクションプランの記載順について)

計画を作った段階では総花的になるが、今回5年間が経過した段階で優先順位を考慮した記載順にしてはどうかということで、事前に各委員に検討してもらった。

各委員が提出した優先順位に対して、事務局が提案した記載順には差異があるが、「武将観光の推進」「“農”を活用した体験型観光メニューの創出」「四季の地域資源を活用したまつり・イベントの開催」については、1位とした委員の数が多かった。その中でも特に武将観光は、1位とした委員の数が最多だった。

そのほかの第2グループは、「産業観光の推進」「広域連携の推進による誘客促進」「サリオパーク祖父江を核とした体験型観光の推進」に力を入れていくという意識になっていると思う。

観光まちづくりラボは、やりたい市民が集まってやりたいことをやるという仕組みであり、そのほかの各アクションプランについても積極的にやるプレイヤーがあれば進んでいくこともあるだろう。美濃路についても当初はそれほど推進していく感じではなかったが、市民の中に積極的な方がいたので、現在多くの人を巻き込んで熱心に取り組みが行われている。このように、やりたい人がいる分野を支援していくやり方と、ある程度の優先順位の中で事業を進めていくやり方の両方で観光を推進していけば良いと思う。

[委員①]

武将観光について調べたところ、稲沢市出身の武将では浅野長勝がおり、屋敷跡の碑が民家の敷地内にあるようだが、他に稲沢市出身の有名な武将はいるか。

[委員②]

織田信長が最も有名であり、他にはあまり有名ではないが、新潟県新発田市の城主が千代田地区・西溝口出身の溝口氏。豊臣秀吉の家来であり、その指示のもと新潟の地を治めたようで、明治維新まで代々続き、地元の方にはよく親しまれた城主だと聞いている。現在もなかなか立派な城が残っている。

[委員長]

信長生誕の地だということは、もっとPRしてよいと思う。

[委員③]

「サリオパーク祖父江を核とした体験型観光の推進」について、常設の施設も揃っており、順位をもっと優先してもよいのではないかと思う。

[委員長]

私も同じ思いを持っている。「サリオパーク…」の記載はもう少し繰り上げて、4番目くらいにしてはどうか。産業観光が上位にきているのは、JR貨物と良い関係が築けそうということ、稲沢市が植木の生産地であるということがあると思うが、この辺りは第2グループとしてほぼ甲乙つけがたいと感じるので、入れ替えることを検討しても良いと思う。

[事務局（観光協会）]

武将観光の中で信長生誕の地については、これからも続けていく必要があると思うが、日々活動している立場からいうと、現在、愛知県が実施している「“ツウ”リズム」の観点から見たとき、歴史ファンにとって信長生誕の地は大きな魅力だが、それ以外の人にとってはそれだけでは魅力になりにくい。現地に資料館や何か見られる素材があれば一般の人にも訴求すると思うが、石碑があるだけで飲食店等があるわけでもない。歴史ファン以外の一般の観光客を巻き込むのは難しいと思っており、目標設定をどうすればいいか困難を感じている。また、こうした地域資源に付加価値を与えて魅力的にすることと、人が呼べることは違うと思っている。歴史の要素だけを膨らませて人を呼び込むことは無理があると感じている。グルメやカフェといった要素を絡めて誘客することが必要だと思う。

サリオパークは、最優先にしても良いと思う。ハード整備をしなくても誘客できる資源と、ハード整備も併せて行う必要がある資源では、もう少し細分化して検討することが必要だと思う。

[委員長]

基本的にはやりたい人に取り組んでいただかないとなかなか先に進まないものであり、観光協会でも日々、色々なことに試行錯誤しながら取り組んでいると思う。武将観光が目に見える形で誘客につながるかという、そうではない現状もそのとおりだと思うが、この順位付けは市の観光における力の入れどころを示したものであると受け取ってほしい。個人的には武将観光の最終的な目標は勝幡城の整備だと考えているが、計画的に進めないとうまくいかないと思うとともに、これを掲げ続ける必要性も感じている。現在の稲沢市の状況では武将観光が目玉にならないのはそのとおりであるが、長期的な目線で取り組んでいくことが必要。信長生誕の地を押している人たちは他の信長ゆかりの地も含めて掘り起こしてくれるだろう。信長ゆかりの井戸を国宝にしようというプロジェクトもあり、最終的な目標が大きいので、すぐに評価ができるものではないが、掲げ続けて活動していくことが重要だと考える。

植木や産業観光でもそうだが、取り組みが実を結ぶまでには時間がかかるので、例えばグリーンツーリズムや体験農業が少しずつ根付いていくように、武将観光についても旗を掲げ続けるということでご理解いただければと思う。

[事務局（観光協会）]

スローガンを掲げ続ける意味は理解できるが、計画として考えたときに、目標を掲げていれば実現できるというわけではない。例えば武将観光であれば、何を目指して活動していくかということが不明瞭なので、他の項目でもそうだが具体性を持たせることが必要だと思う。武将観光を否定するものではないが、ハード整備も含めて、どうしたら魅力的になるかというのは継続性をもって取り組まないと達成できないことも理解できるが、最終的な目標を設定しないと有効な計画にはならないのではないかな。

[委員長]

観光基本計画を作成する段階で、難しい取り組みであることは継続して伝えてきた。そもそも、行政が観光計画を作ることは是非から考えなければならない。福祉や教育、インフラであれば行政がプレーヤーになり、行政が作った計画を行政が実行することができるが、観光分野では、取り組むのは市民であり、行政は作った計画を自身で実行することができない。観光基本計画は、通常の行政が作る計画とは性質が異なることに注意しておく必要があり、作った計画を行政と観光協会のスタッフのみで実行することは不可能。今回の改訂にあたって、観光計画は市民に向けた行政のメッセージであることを事務局に意識してもらっていて、どの分野に力を入れていくのかということ発信する書き方になっている。粛々と計画通りに進めていくことはなかなか難しいということをご理解いただきたい。行政・観光協会の働きかけから市民の方に盛り上がり生まれて、最終的に行政が予算をつけて勝幡城の整備が進むのが最良だが、このことについては卵（盛り上がり）が先かニワトリ（ハード整備）が先かという話になると思う。思い返せば、稲沢市が平成30年に観光基本計画のキックオフイベントを行ったとき、城郭考古学者の千田先生が来ていたが、その際に勝幡城の重要性を強く説かれていた。先生によれば、織田信長の城の変遷を見れば日本の城郭史をそのまま辿ることができるとのことで、これを整備することの重要性を

強調していたが、隣で当時の市長は複雑な表情だった。先生の方でも、整備については予算の絡みもあるという話をしていたが、やはりハード整備ありきの議論も難しいと思った。市としては武将観光の推進という目標を掲げ、地道に進むしかない。

以上のような市の立場や計画への態度を鑑みて、サリオパーク祖父江について、順位を上げることについての皆さんの考えはどうか。(異論出なかったため) 5番目に産業観光、6番目に広域連携ということになる。

[委員①]

織田信長の生誕が勝幡城ということだが、勝幡というと名鉄の駅の印象から愛西市であると思っていた。調べてみると城域は稲沢市と愛西市にまたがっており、碑については稲沢市側に建っている。最近では城ブームもあり勝幡城についても御城印の取り組みがあるようなので頑張って広げていただきたい。

[委員長]

取り組むのは市民の方ということになるので、市民の方全員が信長は勝幡城生誕であると認識して発信するくらいにならないと、市による城の整備というのは難しいと思う。そういった市民の方の意識向上を、観光を通して行っていくのが観光まちづくりだという意識を今一度皆で共有してほしい。「信長生誕地＝稲沢」については、まだ市民の全てには浸透していないと思う。計画の冒頭にあるように稲沢市が目指すのは観光地化ではなく、観光を通じて市内の魅力を磨き上げていくということを意識するようになると良いと思う。

[委員④]

私は、この会議でこれまで話題にあがってきた武将観光を1位にはしていない。武将観光の取り組み内容では、なかなか1位にすることは難しいと感じているのが理由であり、今年は大河ドラマが家康を主人公としているため信長も登場するが、稲沢市だけで信長を取り扱っても、観光の一要素にはなっても主役にはならないと思っている。観光で信長を活用するのであれば、広域的な連携をして推進する方が良いと考えていて、計画に挙がることに異論はないが、1位にするほどかという思いもある。先ほどから勝幡城が話に出ているが、勝幡城は天守閣がなく平城であったので、平城のイメージも持ちながら、武将観光の目玉として押し出していくとよいのではないかと。最終的な目標は勝幡城を整備することという意見もあったが、それを目指した取り組みであれば1位にもなると感じた。

サリオパーク祖父江や農業というのはしっかり稲沢市に根付いており、市民の方が誇りに思っ てPRを行うことができれば魅力が増して脚光を浴びることができると思うので、継続して進めてほしい。

[委員長]

アクションプランの順位付けについては、これまで議論してきた内容で結論としたい。稲沢市の推しどころとしては、武将観光、農業関連と季節ごとのイベントであり、これにサリオパーク、

産業観光、広域で連携しての活動が続くようなイメージで観光に取り組んでいただきたい。

計画を全体的に読んでみると、前半にある基本理念で観光まちづくりのことが記載されていて、この部分をぶれずに中心に据えながら、後半の5年間に取り組むことが重要と考える。市民の方にはもっと稲沢市の魅力に触れ、稲沢市が魅力に溢れたまちであることに気付いてもらうことが目標になると思う。

観光分野でいくつかの自治体の観光計画に携わってきたが、他の自治体の方からどんな計画を作ったらよいかと相談されたときには、稲沢市の観光基本計画を紹介している。それくらい稲沢市の計画はよくできた計画だと感じている。稲沢市の代表的な要素といえば国府宮神社と祖父江善光寺というところから始まっているが、計画を推進する中で、さまざまな魅力が掘り起こされたことは前半5年間の成果であり、この方向性を今後も継続していただければと思う。遠回りに見えることをしているとも思うが、誘客することを通じて稲沢市の魅力を輝かせることが目標なので、長期的な視点での活動をしていく必要がある。

改訂案に対する意見や質問について以上で出尽くしたようなので、事務局はこれまでの議論を踏まえて、計画改訂に関する次のステップであるパブリックコメントに臨んでほしい。

[事務局]

(2) パブリックコメントの実施について資料に基づき説明

[委員⑤]

パブリックコメントについて、例えば同じ内容の意見が多数寄せられた場合の対応はどうか。

[事務局]

パブリックコメントで寄せられる意見については、事務局で回答を作成して公表する。ご意見の中で採用すべきものがあれば、計画の修正等を行い、次回の委員会において説明したい。

[委員長]

基本としては現在の内容で計画を取りまとめる予定だが、パブリックコメントの中に確かにそのとおりだというような意見があれば、内容を変更していくという理解で良いと思う。

(その他に意見なし)

3 その他

[事務局（観光協会）]

3月4日・5日に愛知県植木センターで開催する「いなざわ梅まつり」を紹介する。昨年度まではコロナ禍のため会場内飲食不可で開催していたが、今年度は飲食可とし、ステージイベントも実施する予定。

2月18日・19日にアピタ稲沢店で「い～な稲沢 まるごと観光展」を開催する。盆梅、吊

るし雛を展示して「いなざわ梅まつり」をPRし、ほかにJR貨物の協力によりトイレールの大規模なジオラマを設置して自宅から持ち込んだ車両を走らせることができる企画を実施する。

愛知県の観光まちづくりゼミ事業に稲沢市として参加し、バスツアーのコンペで1位に選ばれた。2月10日に稲沢フルーツ園、木村農園、ご当地グルメ試作メニューの試食、JR貨物、ナカキ食品のアンテナショップを巡るツアーを実施。できあがった観光地を繋ぐというより、地元の方の意見を聞きながら、外部からの視点も入れて、魅力的なものになるようにバスツアーを構築した。これまでは見過ごされてきた地域資源を磨くことで形にしていくような取組を継続していきたい。

[委員長]

愛知県観光まちづくりゼミは今年度が13回目の事業で、県内各地域からの参加者が地元の魅力をつないでツアーを造成し、参加者間の投票で実施するツアーを選んでいる。1位になることは難しいものであり、今年度モニターツアーとして選ばれたのは名誉なことだと思う。特に今回は稲沢市が関係する素材だけでツアーを構成していて、県内の観光関係者に稲沢市の魅力を感じてもらいたい機会になると思う。

以上